

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【I、V】
2 実施対象者	札幌市立北野小学校 5年1組33名 2組31名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 道徳 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	オリンピック講師から、努力を積み重ねた経験についての講話から、目標設定の重要性や、目標達成のために困難にくじけることなく、希望をもって粘り強くやり通す大切さを実感することができるようにする。
5 取組内容	各学級における道徳の時間で、スピードスケートショートトラックのオリンピック講師椿 文子さんから、経歴やオリンピックになるまでのエピソード、夢を実現するまでの努力についての講話から、努力の大切さを実感する。また、子どもたちからの質問に答える時間も設定する。  ○指導計画 [3時間扱い] [道徳の時間] 1時間 ・道徳資料「悲願の金メダル 上野由岐子」を読み、金メダル獲得までの人生にふれ、上野由岐子選手が困難を乗り越えることについての思いや周りの支えについて考える。  [道徳の時間] 1時間 ・オリンピック椿文子さんの「努力」についての講話を聞く。  [道徳の時間] 1時間 ・目標を達成するために、困難にくじけることなく、希望をもって粘り強くやり通そうとする態度を養うことをねらう。滝野宿泊学習に向けて、自分が努力することを「わたしたちの道徳」に記入

し、交流することで、めあてに向かって努力しようとする思いを高める。

**「みんな、どんなスポーツしてる？」**



子どもたちは、「陸上」「野球」「サッカー」と、次々に椿さんに、笑顔で答えを伝えていました。でも、「ショートトラックスケートって、知ってる？」と聞かれると、子どもたちは「知らないです。」「どんな競技？」と、疑問をもちました。



**画像を提示(トリ/五輪)**

すごいスピード！  
転びそうな姿勢

**ショートトラックってすごいな！  
椿先生って、すごいな！！  
どうやってオリンピックにいったの？**

「小さい頃は、体も小さく、運動だってそんなに得意じゃなかった。でも、兄やまわりの仲間に憧れて、努力したんだよ。」

落ち着いた様子で語る椿さん。「気持ちがあれば、道は開ける。私も、オリンピックに出たいと思ったとき、人より努力する気持ちになったよ。人が4時間練習するなら、私は5時間ってね。」

子どもたちは「え、すごい。」「私だったら、あきらめるかもしれない。」「オリンピックに、僕も出られるかな。」と、言っていました。



**才能じゃない。  
努力しないとトップになれない。**

**みんなも、目標をもって、努力を続けて、煌いてね！**

6 主な成果

- 5年生は4月から各行事や学習活動の柱として、学年目標「煌めく」姿を求め、学年としての成長を遂げようと努力してきた。また、2月に実施する滝野宿泊学習に向け、テーマ「協力し絆を深める滝野」を掲げて取り組み始めたところである。しかし、「学年目標にあるような姿で、学年で一つの事柄を成し遂げていない」「学年としての目標を達成できていない」等の思いも、もち合わせている。
- これらを踏まえ、本事業でオリンピックに出場するという夢を自らの目標達成の積み重ねにより成し遂げた方に講話をいただくことで、
  - 「自分に足りないことを見付ける大切さ」
  - 「自分の目標から目を離さない覚悟」
 等を実感し、一人一人が目標達成に向け具体的な取り組みをしようという意識付けがされた。
- 子どもは、自らの漠然とした夢を目標に変える力は、誰にでもあること、そのことに気付くことが重要であることを学んだ。また、自らの能力を最大限に発揮するためには、それに勝る努力を時間と共に積み重ねることであると改めて実感した。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>•「聞く」活動が主となり、子ども自身が課題探求的に活動することが困難であった。具体的な視点を設け、講義テーマに即した具体的な活動を織り込むことが必要であった。</li> <li>•オリンピック出場経験者が来校し、対話的な活動を組むことができたが、本物に出会う感動を具体的な活動を通して味わうことができる指導計画が必要であった。事前の打ち合わせ等の充実を図り、子どもが主体的に関わることをできる展開となるよう改善していく必要がある。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。